

Aグループ（多職種連携）

○6/2

第1回開催

- ・各々が全体コーディネートグループに期待する事や、事例の相談。
- ・計画相談を担当する中で困ったことの共有、障害福祉だけでは対応しきれない時の繋がり模索。
- ・ライフステージ毎（児童→成人等）に課題を整理。
- ・事例（児童・軽度・高齢等）を基に多職種との課題を整理。
- ・各専門分野との情報共有、意見交換、実態把握の必要性を確認。
- ・今年度の部会、2年1期として、Aグループはどのようにまとめていくか。

○7/3

第2回開催

- ・各々が出した事例を整理、共通のテーマ・関心が高いテーマを探る。
- ・家族への教育、リスクがある人達への教育、家族へのサポートや連携、本人の幼少期の親子関係、本人への性教育…について、テーマを絞る。
- ・10月に研修会開催案を出す。当事者妊娠や出産に気付けなかった事例をもとに、本人の生活歴を振り返り、どのような教育や支援を受けてきたのか。教育分野との連携、家族支援や地域支援はどのようなものであったか。各分野が繋がることの重要性を確認する為の研修を企画。

○9/26

第3回開催

- ・10月の研修に向けての準備。大阪で保健体育教諭として勤務し、保健体育の授業の他、性教育の全体指導を行っていた野村氏を講師として呼ぶことに。先生の実践を話してもらった上で、事例検討。

○10/19

研修会開催～支援者が学ぶ性教育について～講師：野村啓子氏 参加人数：19名

- ・講師の野村氏が教育現場で指導をしていた際、家庭に壁・問題があると感じていた。命を生み出す性は、年相応の行動ではなく力と能力に合わせた行動が出来るようにすることが大事。ハンディキャップのある本人に対するサポートを家族に勉強してもらう場が必要。社会全体が抱えるべき問題。根本は教育。性に対する垣根は自分自身にある。健常者も障害者も心と身体の違いを学ぶ機会が必要。

○11/17

第4回部会開催

- ・これまでの振り返り、来期に向けてのまとめ
- ・講義（事例）を通して…
- ・生活指導・家庭環境・家族支援はどうなっているのだろうか、課題あり・なしを含めて知りたい。
- ・家族支援についての取り組み、どんな仕組みがあるのか。
- ・教育・医療関係と緊密な連絡、連携をしていきたい。
- ・本人の担当が変わっても、変わらぬ信頼関係を保っていきたい。顔の見える関係作りが重要。
- ・問題が起きてから支援に繋がるのではなく、問題が起きる前に関わりが持てる環境を作りたい。
- ・障害ある子がいる親へのアプローチ、今困っている人へのアプローチをする為にもネットワークは必要。